

## 佐藤雅晴 「Rabbit」



*Rabbit*, digital photo painting, 70×45.5cm, 2009

会期 2020年2月15日(土)～3月14日(土)  
(日・祝・月休廊)

時間 12:00 - 18:00

会場 イムラアートギャラリー京都

—物から写真へ、写真から絵画へ、  
絵画から写真へ、写真から物へ…  
あるいは、  
物から映像へ、映像から絵画へ、  
絵画から映像へ、映像から物へ…  
そして、私は現実と虚構をサイドステップする—\*1

この度イムラアートギャラリーは、佐藤雅晴の回顧展「Rabbit」を開催いたします。佐藤雅晴（1973年大分県生まれ）は、1999年東京芸術大学大学院修士課程を修了後、2000年にドイツに渡り、10年間デュッセルドルフを拠点に活動しました。帰国後は、国内外で数多くの展覧会に参加し、今後の活躍を期待されておりましたが、2019年3月に長年闘病を続けていた癌のため45歳という若さで他界しました。佐藤の作品は、日常風景を撮影した実写をパソコンソフトのペンツールを用いてトレースして制作されており、独自の世界観を確立しています。実写とのわずかな差異から生まれる違和感は、現実と虚構を行き来するような感覚を生み出します。佐藤の目線で切り取られた世界は、一見何気ない風景のようでありながら、その現実と虚構の狭間に入り込んだ私たちに新たな気づきを与えてくれるでしょう。本展では、佐藤の制作活動を振り返る機会として、直近10年間に制作された平面作品2点と映像作品5点を展示いたします。

\*1 「京芸 Transmit Program #3 Métis—戦う美術—」展（2012年京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA）パンフレットより

imura art gallery

〒606-8395  
京都市左京区丸太町通川端東入東丸太町31  
開廊時間：火曜日～土曜日 / 12:00 - 18:00  
休廊日：日・祝祭日

Tel : 075-761-7372  
Fax : 075-761-7362  
E-mail : [info@imuraart.com](mailto:info@imuraart.com)



## 佐藤 雅晴（さとう まさはる）

1973年 大分県生まれ  
1996年 東京芸術大学美術学部油絵学科卒業  
1999年 東京芸術大学大学院美術科絵画専攻修了  
2000 - 2002年 国立デュッセルドルフ芸術アカデミーにガストシュラー（研究生）として在籍  
2019年 他界

### 受賞歴

2009年 第12回岡本太郎現代芸術賞特別賞  
2011年 第15回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦（アート部門）

### 主な個展

2009年 「ピンクのサイ」 Gallery Jin Projects、東京 / 「signs」 Galerie Voss、デュッセルドルフ、ドイツ  
2010年 「バイバイカモン」 イムラアートギャラリー、京都  
「The Solo Project - Basel」 St. Jakobshalle、バーゼル、スイス (Galerie Voss ブースより出展)  
2011年 「取手エレジー Toride Elegy」 イムラアートギャラリー、東京  
2012年 「ココちゃん Little Girl Coco」 イムラアートギャラリー、東京  
2013年 「ナイン・ホール 佐藤雅晴展」 川崎市市民ミュージアム、神奈川  
「楽園創造（パラダイス）—芸術と日常の新地平— vol.5 佐藤雅晴」 ギャラリーα M、東京  
2014年 「ヒロコの肖像」 イムラアートギャラリー、東京  
2015年 「1 x 1 = 1」 イムラアートギャラリー、京都  
2016年 「ハラドキュメント10 佐藤雅晴—東京尾行」 原美術館、東京  
2017年 「TOKYO TRACE 2」 Firstdraft Gallery、シドニー、オーストラリア  
2019年 「死神先生」 KEN NAKAHASHI、東京 / 「I touch Dream」 KEN NAKAHASHI、東京

### 主なグループ展

2009年 「第12回岡本太郎現代芸術賞（TARO賞）」 川崎市岡本太郎美術館、神奈川  
「City\_net Asia 2009」 ソウル市立美術館、ソウル、韓国  
2010年 「Morality フィルムプログラム」 Witte de With Center for Contemporary Art、ロッテルダム、オランダ  
「六本木アートナイト—六本木ヒルズプログラム ビデオアート上映」 六本木ヒルズ、東京  
「D調 / Di-Stances」 國立臺北藝術大學 關渡美術館、台北、台灣  
2011年 「JAPANCONGO: Carsten Hollers double-take on Jean Pigazzis collection」 (フランス) / (ロシア)  
「第8回 団DANS - Hierher Dorthin—こちらへ あちらへ」 ドイツ文化センター、東京  
2012年 「紙非紙—中日紙芸術展」 中央美術学院美術館、北京  
「京芸 Transmit Program #3 Metis—戦う美術—」 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都  
「第15回文化庁メディア芸術祭受賞作品展」 国立新美術館、東京  
「2:46 and thereafter」 Pepco's Edison Place Gallery、ワシントンD.C.、アメリカ  
「Photo Reference: Photographic Image in Contemporary Japanese Art Practices」 (ベオグラード、セルビア)  
-2013年 「ジバング展—沸騰する日本の現代アート」 新潟県万代島美術館(新潟)、他 群馬、秋田、青森会場巡回  
2013年 「Yamato Dynamics」 Mizuma Gallery、Gillman Barracks、シンガポール  
2014年 「日常／オフレコ」 KAAT 神奈川芸術劇場、横浜  
「The Drifting Clouds」 Galleria Paola Verrengla、サレルノ、イタリア  
「文化庁メディア芸術祭松山展 MOVE——メディアで拓がる身体表現」 愛媛県立美術館、愛媛  
「FILE 2014」 Fiesp Cultural Center、サンパウロ、ブラジル  
「WHO 読んでみる」 PEOPLE BOOK STORE、つくば  
2015年 「豊穣なるもの—現代美術 in 豊川」 豊川市桜ヶ丘ミュージアム、愛知  
2017年 「empty park」 Gallery PARC、京都  
「清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2017」 岐阜県美術館、岐阜  
「ニッポンの写実 そっくりの魔力」 北海道立函館美術館(北海道)、豊橋市美術博物館(愛知)、奈良県立美術館(奈良)  
「オオカミの眼 -The Iris of a Wolf」 BLOCK HOUSE、東京  
2017-2018年 「THE ドラえもん展」 森アーツセンターギャラリー(東京)、他 富山、愛知、大阪会場巡回  
2018年 「現代美術に魅せられて—原俊夫による原美術館コレクション展」 原美術館、東京  
2019年 「六本木クロッシング 2019展：つないでみる」 森美術館、東京  
「ACT (Artists Contemporary TOKAS) Vol.1 "霞はじめてたなびく"」 トーキョーアーツアンドスペース本郷、東京